

「有機質肥料を活用したお米（京の豆っこ米）の栽培」 ～「自然循環農業への取組み」（京都府与謝野町）～

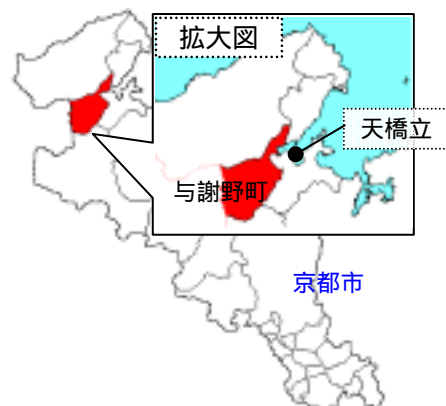
【京都財務事務所】

1. 地域の概要

京都府与謝郡与謝野町は、平成 18 年 3 月に加悦、野田川、岩滝の各町が合併して誕生した人口約 2.5 万人（平成 22 年 4 月末現在）の町です。府北部の丹後半島の付け根に位置し、北は日本三景のひとつである天橋立のある阿蘇海に面し、南は大江山連峰のふもとまで広がる自然豊かな町となっています。

主な産業としては、かつては丹後ちりめんの一大産地として織物業が栄えていましたが、丹後地方の生産量は、ピークである昭和 40 年代の約 5% にまで落ち込んでいます。

農業では、丹後地域は昼と夜の温度差が大きいことから、おいしい米が出来る地域とされており、コシヒカリの栽培が盛んとなっています。丹後産コシヒカリについては、（財）日本穀物検定協会が毎年公表している『米の食味ランキング』において、新潟県魚沼産等米どころの銘柄と並ぶ「特A」（複数産地コシヒカリのブレンド米を基準米とし、これよりも特に良好なもの）を 3 年連続（19～21 年産）獲得しており、西日本地域で「特A」を獲得しているのは、丹後以外では、長崎・熊本の一部のみという、高い評価を受けています。



2. 取組みの経緯

この取組みの発端は、平成 7 年、旧加悦町において、自然環境に配慮し、有機質肥料を中心とした農業の推進を図る「町環境保全型農業推進方針」を策定したことに始まります。当時は、継続的な原料確保が出来ないことから、具現化せずに構想段階に留まっていたが、平成 12 年に町誘致により第 3 セクター「京とうふ加悦の里(株)」の「加悦豆腐」が豆腐工場の操業を開始し、豆腐の生産過程で出る「おから」が有機質肥料の原料となることから、原料確保に目途がつき、有機質肥料の開発が始まることとなりました。

<有機物供給施設の外観>



動植物質を原料として製造された肥料。土中の微生物に分解されることによって、作物の栄養素として吸収される。

3. 取組みの内容

与謝野町（開発当時は加悦町）では、京都府、京都府丹後農業改良普及センター、JA 京都の技術支援を受けて提携しながら、豆腐工場で豆腐の生産過程で出る「おから」のほか、「米ぬか」「魚のアラ」及び発酵菌を 1 昼夜攪拌して生産される有機質肥料『京の豆っこ』を開発しま

した。町においては、有機質肥料の供給施設を町の直営として、生産者への安定的な供給に努め、化学肥料や農薬使用を軽減し、安心・安全・自然環境に優しい「自然循環農業」に取り組むこととしました。



4. 取組みの広がり

『京の豆っこ』を使って栽培された『京の豆っこ米』は、平成 15 年度に栽培・販売が始まりました。この肥料を使用して栽培されたお米については、タンパク質が低く、食味が高いといわれています。この取組みは、旧加悦町のほか他の旧 2 町域にも取組みが広がっており、平成 19 年 12 月には町内の教育施設で『京の豆っこ米』の給食利用が始まったほか、平成 20 年 3 月には、地元集荷流通業者の働きかけを契機として、大手スーパーでの販売も開始されるなど、京阪神等へ販路が広がってきて

います。

現在の栽培状況等については、水稻作付面積が、栽培開始時の 62ha から 105ha (21 年度)、販売量についても 174 t から 316 t となるなど、広がりを見せています。

また、産地偽装問題等により食の安全が求められるなか、当町自然循環農業に対する取組みが、顧客に対する大きなアピールポイントとなっており、米販売による農家の手取価格については、他のコシヒカリがデフレの影響を受けて価格を大きく下げ一方、『京の豆っこ米』については、ほぼ、価格を維持する結果となっています。

「京の豆っこ米」生産量等の推移

年度	作付面積(ha)	生産者数(人)	生産量(t)	販売量(t)	農家手取価格(円/袋)	
					豆っこ米	その他コシヒカリ
15	62	110	279	174	8,800	8,650
16	63	109	284	205	8,609	7,250
17	64	113	288	202	7,550	7,250
18	65	99	293	202	7,250	6,750
19	68	120	306	203	7,650	5,750
20	90	122	405	284	8,237	6,625
21	105	119	472	316	8,400	6,625

販売量は、販売補助金交付対象分 1袋 = 30kg
農家手取価格については、与謝野町試算

(資料:与謝野町)



5. 課題と今後の対応

現状の課題については、農業者の後継者育成、PR不足等が挙げられています。

農業者の後継者育成については、新規就農者を府と連携して受け入れ、研修先の斡旋や資金支援を行っているほか、農業生産法人等への就農斡旋も行っています。今後は、大規模農家に農地を集積することで効率的な経営を目指し、平成 23 年度には作付面積 150ha、販売数量 500 t を目指したいとしています。

PR不足に対しては、各種イベント等でパンフレット・試供品を配布してPRに努めているほか、ホームページの立ち上げ、高級料亭等への試供品送付等を計画しています。

与謝野町では、町発展のために合併 3 町の一体感が醸成されることが必要との認識であり、「自然循環農業」を介して、確実に交流が深まっていると手応えを感じています。今後も『京の豆っこ米』の栽培を通して、更なる発展が期待されます。

(与謝野町ホームページアドレス <http://www.town-yosano.jp/wwwg/index.jsp>)